

let's eat together



里親支援センター
ほっと♡

TEL 0739-34-2735

和歌山県田辺市城山台 5-1

<https://www.wfj.or.jp/hot>



里親なんて自分に関係ない

と思っていたけど、

ひょんなことから関わったことで、

みんなが知るというなと思いました。

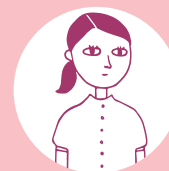
わたしたちは、

今すぐ里親になれるとは思っていません。

それでも知っていた方が良かったことを

まとめています。

登場人物



Aさん

30代、既婚、2児の母。

趣味は読書。興味を持ったことはいろんな角度からとことん調べたくなる、研究者タイプ。



Bさん

30代、既婚、3児の母。

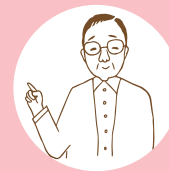
あれこれ考えるより、まず行動。運動は苦手だけど、軽い筋トレは欠かさない。義理人情の世界観が好き。



Cさん

20代、未婚。

何事にも興味を示し、いろいろやってみるチャレンジ精神の持ち主。座右の銘は、一期一会。



「里親支援センターほっと」センター長

紀南地方に里親制度が根付くよう、日々奔走中。毎日の晩酌が楽しみのひとつ。

里親＝養子縁組？＝養子？

里親って、どんなイメージですか？
血縁関係、新しい家族、難しそう、よくわからない…
立場や経験がそれぞれ違う3人は
どう思っているのでしょうか？



Aさん

最近、里親支援センターの方とお会いする機会があって、なんとなく「里親」に関心を持ち始めたのだけど、里親について知っていることってある？

Cさん

犬とか猫の里親のこと？



Aさん

その里親もあるね。
今回は、こどもの里親について。

Bさん

知ってる、知ってる。
私、里親やってみたいと思ってる！



Aさん

え〜〜〜！
こども3人も育てて、さらに里親も考えてるってこと？

Cさん

里親ってなんとなく、元学校の先生とか芸能人とか、偉い人やお金持ちの人が手を挙げるものだと思ってた。



Bさん



私、普通の主婦です(笑)。特別賢くもないし、超リッチな暮らしもしてない、普通の人。

Cさん

実のこどもとして受け入れるってこと？



Bさん



養子としてではないよ。いろんな受け入れの形があるみたい。私はまず、**週末里親**からかな〜。

Cさん

週末里親っていうのもあるんだ。



Aさん



そうそう。事情があって実の家族と暮らせないこどもたちを迎え入れるのが里親制度ね。休日を利用して家庭に迎え入れる**週末里親**、一定期間家庭に迎え入れて生活を共にする**養育里親**など、里親と言っても種類はいろいろよ。

里親の種類も、家族と暮らせない理由もいろいろです。

里親と養子縁組のちがいは？

「里親制度」は、一時的または継続的に子どもを家庭に迎え入れて養育する制度。親権は実親にあります。

「養子縁組制度」は、養子縁組により法律上親子になるという制度です。

里親の種類

養育里親	保護者のもとで育つことができない子どもを、一定期間自分の家庭に迎え入れて養育する里親です。(実親の状況によって、途中で保護者の元に戻ります)
専門里親	虐待を受けた子ども、非行あるいは障害のある子どもを専門的な知識をもって養育する里親です。
親族里親	祖父母など、子どもの扶養義務者やその配偶者が、親の死亡・行方不明などになった子どもを養育する里親です。
養子縁組里親	養子縁組を希望する里親です。養子縁組成立後は、戸籍上の実子として育てます。
週末里親	乳児院や児童養護施設で生活している子どもたちを休日や長期休暇を利用して家庭に迎え入れ、家庭生活を体験させる里親です。

家族と暮らせない主な理由

現在、家族と暮らせない理由の第1位は、家族による虐待。両親が行方不明になったり、離婚が原因で家族と離れることが多かった40年前とは状況は大きく変わってきています。

ここでいう虐待とは、身体的・性的・心理的虐待、ネグレクト(育児放棄)のこと。背景には、核家族化による子育て家庭の孤立、ひとり親世帯の増加、子育てへの不安感・負担感の増加などがあるとされています。



実は里親は足りている？

里親をしている人に会ったことがない…
そう考えると、里親って足りてないのかな？
知らないだけで足りているのかも？
今の現状はどうなっている？



Bさん

私はずっと里親になりたいと思っていて。里親について話が聞ける「さとおや cafe ほっと」の広告を新聞で見つけて、話を聞きに行ってみました。

おお！



Bさん

そこで驚いたのは、里親として登録してる人が結構いるということ。

Aさん

ということは、里親は充分足りてるの？



Bさん



充分ではないよ。登録する人が多ければ多いほど、**子どもたちの選択肢が増える**から、いればいるほどいいみたい。例えば、里親のもとで暮らすことになった子どもにとって、里親が同じ校区にいと転校しなくていいね。ただでさえ家庭環境が大きく変わって不安なところ、これ以上心の負担を増やさなくてすむよね。

Cさん

なるほどね。でも、里親として子どもを迎え入れてから悩むこともあるだろうな～。



Bさん



そうね～。里親になったからには、立派に子どもを育てなければという責任感をより強く感じて、しんどくなっちゃう人もいるみたい。

Cさん

そんな時に頼れるところはあるの？



Bさん



里親支援センターの職員さんに相談できるよ！親身になって話を聞いてくれるし、同じ悩みをもつ里親同士で情報交換ができる里親の会もあるよ。

Aさん

里親だけで子どもを育てるのではないから安心だね。子育てしていて辛い時は誰にでもあるから、1人で背負い込まなくてもいいんだってことを知ってもらいたいな。それぞれの家庭で状況は違うから、地域全体で助け合いながら子育てできる社会になったらいいよね。



子どもたちのために増やしたい、里親登録数。

里親家庭で生活している児童数

和歌山県内では令和4年度末時点で、家族と一緒に暮らすことのできない子どもは約400人。そのうち、里親家庭で生活しているのは68人であり、多くの子どもが施設で生活しています。

和歌山県では、より多くの子どもたちに家庭と同じような環境を提供できるように、里親家庭で生活することを目指しています。

全国的にも、施設の規模をどんどん小さくして、より家庭的な環境づくりを推進しているよ。



里親を支える制度

里親委託を推進する上での課題の1つとして、里親制度の社会的認知度が低く、新規委託可能な登録里親が少ないことがあげられています。経済的な不安や、迎える子どもとの関係性を案じて里親になることを躊躇している方が多いようです。

養育里親になると、国から、経済的支援として月9万円+生活費などが支給されます。また、里親支援センターの職員が定期的に家庭を訪問するなどのサポートもあり、困ったことがあっても一緒に考えながら子育てをしていく体制が整えられています。

家計に負担がかからないように支援してくれるのは、心強い！



里親について、みんなこんなこと思った！

里親について座談会を開きました。みなさんが里親について抱えているイメージ、疑問や不安に思っていることをたくさん聞かせてもらえました。



座談会参加者 9 人

里親のイメージ

里親は立派な人
しれできない

経済力のある人
がすること...

覚悟とか
責任がある

海外では
普通っぽい

疑問や不安

なぜ里親が
必要?

どんな人が
向いてるの?

里親になったら
誰かがフォローして
くれるの?

どんな子ども
たちがいるの?

受け入れたものの、
相性が合わなかったら
どうする?



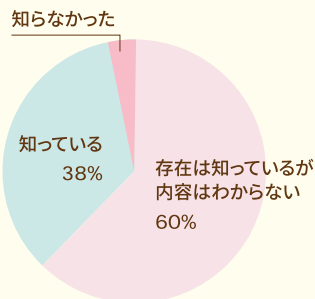
里親ってどこか遠い世界のこことって感じがしてて。普段話題にならないし、身近にやってる人もいないし...だから疑問や不安が多くなってしまいうのかも。

私もみんながどんな風に里親のことを考えているのか気になったので、アンケートを実施してみました!

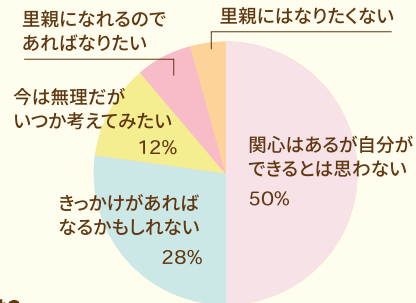


アンケート回答者 69 人

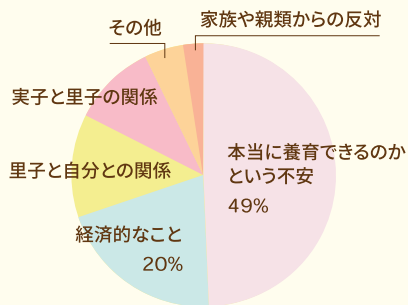
里親制度を知っていますか？



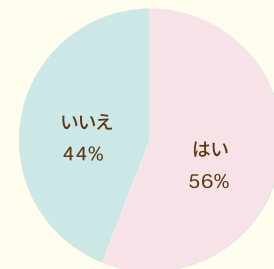
里親制度についてどのように感じますか？



自分が里親になるとしたら気になることは？



里親のことをもっと知りたいですか？



里親制度の存在は知っていたけど、詳しくは知らない人がほとんど。本当に養育できるかが不安で自信が持てないという気持ちは、とてもわかります。



なぜ里親が必要な？ 施設じゃダメなの？

施設での生活と家庭での生活って、
どんなところが違うの？
週末に里親の元で過ごすってどんな感じ？



Cさん

家族と暮らせない子どもたちは、どんな施設で生活してるの？



Aさん

児童養護施設や乳児院といった施設で生活してるよ。最近は、より家庭に近い形で生活できるように小規模な施設もできてるよ。



Bさん

施設では、誕生日会やクリスマス、七五三やお祭りなど、子どもたちが喜ぶイベントが盛りだくさん。スタッフの方々は温かく、時に厳しく、親代わりとなって真剣に子どもたちと関わってくれてるよね。

Aさん



さらに、専門的な知識を身につけた児童指導員、保育士、栄養士、心理療法担当の職員の方々が子どもたちの生活を見守ってるよ。

Cさん



そっか。だとしたら、施設で生活するというのもいいんじゃない？ 結構居心地良かったりするかも？

Bさん



そうだね。そういうケースもあるけど、**家庭での生活を楽しみにしてる**子どももたくさんいるみたい。

実際に、週末里親の家で過ごしたということが話をしてくれたんだけど、晩ごはんのメニューを考えてスーパーに買い物に行ったとか、初めてATMでお金を引き出したとか、そういうことが新鮮で喜びを感じられたって言ってたよ。

Aさん



里親家庭では、**施設ではできない経験**ができるってことね。

Bさん



それと、スタッフが交代制勤務の施設と違って、**里親はずっと一緒にいられる安心感**があるみたい。週末だけでもそういう存在になれたらいいな。

こどもの成長には「家庭」が大事。

施設での生活

家庭で生活できないこどもたちは、施設での集団生活で社会性や協調性などを育てていきます。自分の境遇に近いこどももいるので、そういう意味では安心感につながることも。一方、施設でのルールや規則があるので、こどもたちがそれぞれの個性に応じた生活を送ることが難しい場合もあります。

施設や里親家庭での生活は、基本的に満18歳(満20歳に達する日まで延長することが可)まで。その後は、社会の一員として歩んでいくこととなります。

施設を出て、自分の力だけで生活をしなくては
いけないとなると不安だろうな…



里親家庭での生活で得られるもの

親の立ち振る舞いを知らずに育ったこどもたちは、自分が親になった時、こどもとどのように接すればいいのか戸惑うことがあるそうです。家庭生活することは、将来の家庭生活をイメージする上で大きな足がかりになるはずですよ。

また、自立後も里親はこどもたちに寄り添い続けるので、里親家庭が実家のような安心感に繋がります。



何かあったときに相談できたり、
頼りにできる人がいるというのは、
生きていく大きな力になると思う。



私にもできるかな…

週末里親

家庭生活がこどもに与える影響って

想像以上にあるんですね。

でも、こどもを迎え入れるってちょっとソワソワ。

どんな風に接したらいいのかな…?

Aさん



里親が必要であることは理解してるけど、私は実子
の子育てで手一杯。この状況で里親に手を挙げる
のは、やっぱりハードルが高いな…

Bさん



みんな里親になったらいいのには思ってますよ。
私はやりたいから希望をしているだけで。

目指すは、親戚のおばさんやおばあちゃん存在。
週末里親がきっかけになって、私の所へいつでも遊び
に行っていんだって思ってもらえる関係性を作って
いきたいな。

Cさん



話を聞きながら思ったんだけど。私の家は商売をしてたから、休日はおばあちゃんのところで過ごして。特別どこかに連れて行ってもらった記憶はないけど、買い物に行ったり、一緒にテレビを見たり、散歩したりしてたな～。週末に子どもを預かるってそういう感じ？

Bさん

そうそう！ 特別になにかをすとかじゃなくて、普段通りに一緒に過ごす感じ。



Cさん



週末里親について、なんとなくイメージがわいてきた！

Aさん

私は、今すぐに里親ってというのは無理だけど、いつか気持ちに余裕ができた時にまた考えてみるね。もっと深く勉強してみんなに伝えることが、今の私にできることかな。



Bさん



知ることも立派なサポートになるからね。今の自分にできることをすればいいんじゃないかな。とりあえず、来週末は週末里親の第一歩。施設での週末ボランティアに行ってみます。また報告するね。

週末里親って、いつでも行ける親戚のような存在。

週末里親とは

月に1～2回の週末や、夏休み・お盆・お正月などに施設で生活することも家庭に迎え入れ、家庭生活の経験ができる場を提供するボランティアのこと。

週末里親になるには、研修を受け、施設に通うなどして子どもとの関わりを深めることから始まります。特定の大人との信頼関係を結べる経験も必要との観点から、継続的に1人の子どもと関わることが基本です。

里親支援センターほっと

里親制度についての広報・啓発、里親家庭への訪問指導や養育相談などの支援を行っています。

田辺市城山台 5-1 (ひまわり寮内) TEL: 0739-34-2735
<https://www.wfj.or.jp/hot>



里親に興味を持ったらご連絡ください。



里親制度について知りなくなったら、毎月行われている「さとおや cafe ほっと」「巡回パネル展・相談会」もおすすめです。里親支援センターほっとの職員さんが制度について丁寧に教えてくれたよ。



新聞広告やチラシで情報発信しています。お電話での確認も歓迎です。



さとおや cafe ほっと

月1回のペースで開催しています。お菓子や雑貨の販売もしており、誰でも気軽に入りやすく、なんでも聞ける雰囲気を目指しています。

巡回パネル展・相談会

里親制度についてパネルでわかりやすく展示しています。展示期間は約1ヶ月。期間中2日間は職員が常駐しているので、個別に相談もできます。

ホールケーキを前に、
「莓いっぱいのところがいい！」
「そっちのが大きくない？」
「じゃんけんしよ～」
なんて会話が聞こえてきそう。

週末里親で迎えたこどもと
そんなひと時を過ごす光景を描きながら
この冊子を作りました。

それと同時に、
丸ごと1人で里親を背負ってしまうのは荷が重いけれど、
週末里親としてケーキの1ピースでも、
いちご1粒でも、
生クリーム1口でも、
それぞれの形で
里親制度に関わりを持たせたらな、と。

1人で食べるよりきっと味わい深そう。
ホールケーキ、一緒に食べませんか？

